

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500688		
法人名	有限会社 栄野会		
事業所名	グループホーム かなえ		
所在地	〒823-0004 福岡県宮若市磯光1713-45	TEL 0949-34-1157	
自己評価作成日	平成 22年 8月 23日	評価結果確定日	平成 22年 9月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL 093-582-0294	
訪問調査日	平成22年 9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームかなえは緑豊かな丘の上にある1ユニットグループホームです。ホーム理念である、(家庭的な温かな環境・なじみの関係作り・笑顔とゆとりのある暮らし)の具現化に向けて業務を行っており。入居者様がその人らしい生活が送れるよう、入居者様・ご家族様・職員・関係機関との繋がりを大事にし日々の問題・悩み等々、前向きに取り組んでいる。地域同業者協議会(GHみやわか)での勉強会・研修会にも参加させていただき、その研修内容を共有しておりサービスの質の向上を図っている。また地域密着型サービスとして地域貢献できるよう全職員・同業者様にも色々なご意見を頂き力を入れていくところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮若市郊外の緑豊かな自然環境の中、デイサービス併設の「グループホームかなえ」がある。利用者、家族、ホームが「鼎」という三本の足で支え合い、「家庭的な環境、馴染みの関係づくり、笑顔とゆとりのある暮らし」という理念の基、喜びも悲しみも共有し、利用者とは家族、ここで暮らして良かったという思いで、安心した日々を過ごしている。利用者は職員と同伴する子供のお世話が楽しみで、笑い声が絶えない様子は、見ていても微笑ましいものがある。また、看護師の細やかな見守りと、バイタルチェック、提携医のアドバイスで、健康管理は万全なものがある。地域の行事やホームの夏祭り、そうめん流しには、参加者が多く、地域密着型ホームとして、交流の輪が広がっている。若い職員が多く、行動力もあるので、今後は、介護110番等を設立し、地域に貢献することを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で毎月一回のスタッフ会議の時に話している。また理念の共有・実現化する取り組みとして、出勤・退勤時に各自で理念を読んでいます。	ホーム名のかなえの頭文字をとって、「家庭的な温かい環境づくり、なじみの関係づくり、笑顔とゆとりのある暮らし」を理念に掲げ、毎月の職員会議で全員で話し合い、共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校からの見学・交流を受け入れたり、宮若市の祭りに参加している。また自治会長を通じて地域の方にホームでの行事の呼びかけをして頂いているが、気軽に訪問して頂ける様には至っていません。	自治会に加入し、会長を通じて地域の方にホーム行事への参加を呼びかけている。地域の小学生との相互訪問や宮若市のお祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関の表にAEDの設置を案内し、近隣の方にもご活用していただける様にしています。また職員とも話し合いをしているが当ホームの場所などの条件により、その他は地域に貢献できていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に関係者を招いて開催しています。会議内容は職員の入退職者・ホームの状況・行事などを写真・便りにて報告を行い、意見交換をしてサービスの質の向上に活かすよう、一つずつ取り組んでいます。	メンバーは家族、区長、行政、職員、法人代表で2ヶ月毎の開催を予定している。ホームの現状、利用者の状況、行事報告等を行い、参加者から意見をもらいサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行政を訪問してホームの入居者様の状況や取り組み、ホーム便りを届け、意見の交換を行っている。今後も訪問できる時はこまめに足を運んで、更になじみの関係になれるような協力関係を目指しています。	ホーム代表が、宮若市の住民で市との関わりも深く、定期的に市担当者を訪問してホームの現状や取り組みについて報告し、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議にて身体拘束について話あっている。事例があれば、その都度、具体的にどう対応すればいいかなど、意見交換しており、日々のケアでも職員一人一人が身体拘束をしていないか確認・声かけ合っています。	マニュアルを作成し、定期的に内部研修を実施している。日々のケアを振り返り、職員一人ひとりが、身体拘束をしていないかお互いに確認し、声かけをおこなっている。日中は玄関の鍵はかけずに、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議にて虐待防止について資料を読み合せて周知徹底しており、外部で研修があれば参加している。また日常も精神的に不安定なまま勤務しないようコミュニケーションを大事にし常にモチベーションの維持・向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている方はいない。研修・勉強会などにすべての職員が参加・理解している状況ではないので、全職員が、入居者様・ご家族様へ適切にアドバイスができるよう研修の充実が求められます。	現在、成年後見制度の該当者はいない。玄関には日常生活自立支援事業の資料を設置しているが、全職員が理解し支援できる体制が万全とはいえない。	研修会への参加や勉強会を実施し、職員の理解を深めると共に、制度の資料やパンフレットを揃え利用者、家族へ説明できる体制づくりが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、本人様・ご家族様に書面を用いて、重要事項説明書・契約書の説明を行い、希望等を聞きながらできる事・できない事を説明しており、一旦ご自宅にお持ち帰りしていただき、再度確認、疑問点などをお伺いしてから署名・捺印を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が意見・要望を言いやすい様に働きかけている、またご家族様にも同様に意見・要望・苦情等を発言しやすいような関係作りを心がけている。意見・要望・苦情等について申し出があればその都度、検討会議を行い対応策を職員全員で考え改善を図り反映させています。	利用者、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気、関係を心がけている。意見箱への投函は殆ど無いが、面会時などに直接意見を聴いている。出された意見については、その都度、検討会議を開き、全員で話し合い運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で代表者は、運営に関する意見・提案を聞き、誰にでも意見が言えるように個別に面談を行うなどして、意見・提案を業務に反映させて質の向上につなげています。	毎月の職員会議、個別面談を行い職員から意見や提案を聴くようにしている。活発な会議となっており職員からの意見も多く、業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日出勤して業務を把握し、職員に対して目配り・気配りを行い、現場の声を大事にし、職員が主体となり、何事にもやりがいをもてるよう環境整備に努めています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件に性別・年齢・経験の有無による制限はなく、本人の適性や、介護という職種についての思い、理念への共感等を重視している。希望に沿った休日も可能であり、職員のストレスの解消(季節に合った行事)を企画し実施している。また定期的に職員と面談を行い、それぞれの目標・悩み等を汲み取る機会を設けており、モチベーションの向上・自己実現へ向けて取り組んでいます。	職員の採用にあたっては、性別・年齢・経験の有無に関わらず、本人の適性や介護への思いを重視している。定期的に面談を行い目標や悩みなど聴く機会を設けたり、食事会などを開催し、意欲向上・自己実現へ向けて取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部での人権学習に参加し、会議時に伝達している。また身体拘束防止や高齢者虐待防止マニュアルを整備しており、契約書に利用者の10ヶ条を謳い身体拘束・虐待防止について明記しています。	身体拘束防止、高齢者虐待防止マニュアルを整備し、その中に利用者の10ヶ条を謳っている。外部研修に参加し、内部で伝達研修を行い職員への人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画があり、外部研修の報告書を作成し、会議時に伝達講習し職員の知識向上を図っている。また職員の意向・段階により実践者研修・管理者研修等にも積極的に参加していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は地域のグループホーム協議会にて開催される、勉強会・交流会・研修会にて情報交換・同業者のホーム見学にてサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、ご本人様から日頃の生活状況をよく聞きながら、不安な事・困っている事要望などをお伺いし、全職員で話しあいをして対応・解決に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時、相談時にご家族様からの要望や不安に思う事を聴取し、全職員で共有、実施しています。また連絡・報告を継続徹底し、ご家族様が話しやすい状況作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人様・ご家族様の状況・どのような生活が望ましいかなど意向に沿った対応に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には何事もできる事は一緒にしていただき、家事や野菜作りなど学ぶ事が多く、(笑い・喜び・悲しみ)色々な感情を共に共有し、コミュニケーションを図り、家族の様な関係を築いていけるようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況とご本人様の状態を見極め、外泊・外出をする事で一緒に過ごして頂きコミュニケーションを大事にいただいている。また行事にも積極的に参加頂くよう努め、ご家族様と職員が、ご本人様を支えていけるよう、より良い関係を築けるように努めています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へドライブに行き、思い出に花を咲かせる、また年賀状・暑中見舞い・手紙・電話等で馴染みの人との関係が途切れないように支援しています。	利用者は、自宅や友人宅を訪問したり、隣接するデイサービスへ足を運び、友人との会話を楽しんでいる。また、年賀状、暑中お見舞い、手紙、電話などで連絡を取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない人同士が時には口論やクレームになる時もあるが、個人個人の生活スタイルを尊重し職員が間に入り個々の人間性を理解して頂けるよう、また入居者様が一人でも孤立しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業者及び管理者が年賀状や暑中見舞い等の連絡を定期的に行っており、またいつでも相談頂けるような関係を入居されている時から築き上げていくように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を尊重し、一人一人の思いや、生活環境、日常会話の内容の中から、ご本人様の意向の把握に努めている、また意思の疎通が困難な場合にはご家族様に生活歴・生活環境・趣味などをお伺いし、本人本位に検討し少しでも満足がいくように対応しています。	利用者との日常の会話の中から、思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族から生活歴、生活環境、趣味等の情報を得て、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人様・ご家族様・関係者様に生活歴をお伺い記録し職員間で共有し合い、また自宅を訪問させていただき生活環境の把握にも努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察・申し送り・介護記録・健康チェック表を活用し、ケアプランの作成、把握に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が生きがいを持って生活ができるように、本人様の話を聞き、ご家族様の面会や主治医の定期的な往診を活用、ニーズをしっかりと把握した上で介護計画を作成しています。	本人、家族からは日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映している。毎月モニタリングを行い、担当者会議には家族に参加してもらい、3ヵ月毎の計画の見直しを実施している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や個人ファイルなどに、日々の生活状況・身体的状況・本人様の言葉・悩みなどを記録し全職員が把握できるようにしている。また職員会議などで情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様より話を聞き、状況や要望に向き合いできる限りの支援を行えるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学校や併設しているデイサービス利用者様との交流、また定期的に消防職員さんより防災・避難訓練を受けています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度は協力医療機関より往診に来て頂いている。緊急時にもすぐに受け入れ対応して下さる。またご本人様・ご家族様のご希望での、他の医療機関の受診も支援しています。	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっており、希望に応じて通院介助も行っている。2週間に1回、協力医による往診や訪問歯科と連携し、受診の支援をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており入居者様の体調などで変化があった時の対応などの助言、会議での看護に関する問題点・疑問点の解決、また併設のデイサービス・協力医療機関の看護師にも相談できる体制を設けているので、いつでも相談・対応・支援できます。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書と共に医療機関との情報交換に努め、ご本人様の環境が変わった事での不安感を少しでも取り除けるよう、ご家族様にも協力をお願いし、安心して過ごし早期退院につながる様に支援しています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時またはご家族様が訪問された時などに重度化や終末期に向けた話し合いなどしているが、重度化や看取りに関する同意書が取り交わされていない為、今後具体的内容が記載されている同意書を作成し、ご家族様と改めて話しをしていきたいと考えております。	入居時や家族の訪問時に、重度化や終末期に向けた話し合いを行っているが、口頭での確認で、同意書は取り交わしていない現状であり、今後は同意書の作成を検討している。	重度化や終末期に向けた指針を作成し、利用者、家族への説明を行い、了承を得ることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修、外部の研修にも参加しており、スキル向上に努めている。また救急蘇生及びAEDの使用方法についても再度研修を行う予定です。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	近隣の住民の方にも協力を得られるよう働きかけており、災害マニュアルでの研修も行っている。避難訓練など定期的には実施できてなく、(備蓄品)具体的に飲料水・食料などの備蓄も出来ている。	消防署の協力を得て避難訓練を行い、スプリンクラーの設置も完了している。地域の協体制については、区長にお願いして地域の方に働きかけをしている。災害時に備えて、飲料水や非常食を準備している。	年2回の避難訓練の実施と、夜間を想定した避難訓練や地域住民の協力を得ての合同訓練などを行っていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシーに配慮した声かけを行い接するようになっている。個人情報に関する規定及び利用目的も掲示をしている、また定期的に研修を行い、全職員の意識を深めるようになっています。	職員は、利用者のプライバシーに配慮した、対応や言葉かけをするように努めている。定期的に研修を行い、職員の意識を深めている。また、個人情報に関する規定及び利用目的を契約書に謳い、ホーム内に掲示している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望などをよく傾聴し、職員と共に買い物に出たり、入居者様が思うように働きかけている。また希望・要望をうまく伝えられない方も、日々の会話での内容など表情を見て色々な思いを探りながら職員の決め付けにならないよう、職員間で話し合い支援させていただいています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や職員の勤務時間にあわせるのではなく、入居者様の生活のペースや心身の状況・希望にあわせて支援させていただいています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など入居者様の希望の物を一緒に買いに行ったり、行き着けの理髪店に行ったり、入居者様のご希望に沿ってできる限り支援しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、ホームの畑でできた食材を入居者様と一緒に下ごしらえして食事にとりいれたり、味付けなどのヒントを頂いたり、後片付けの協力をお願いし、食事を楽しく・美味しくいただけるように工夫しています。	利用者は、ホームの畑で採れた野菜等を、料理の下ごしらえや、味付けを教えたりし、職員は、後片付けを利用者と一緒に行っている。利用者の残存機能を発揮してもらい、自信や楽しみに繋がるよう支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の時間に合わせた食事を行い、補食等を使い臨機応変に対応しています。水分摂取も時間を決めて行いこまめに摂取していただくよう支援しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行っている。介助が必要な入居者様もご自分でできることまでしていただき、最終的に職員が口腔ガーゼを使用し洗浄・確認・点検を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用し、排泄パターンを考慮した上で定期的にトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄を行うよう支援させていただいている。また衣類の着脱などご自分でできる範囲のことはご自分でしていただくように支援しています。	利用者の排泄チェック表を活用し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。羞恥心に配慮し、衣類の着脱などは利用者の身体能力に応じて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認しながら、体操やレクリエーションで運動を行い、水分摂取の声かけ・また食材の工夫等、なるべく薬に頼らないよ働きかけています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望があれば、入居者様の気分や体調を考慮した上でいつでも入浴ができるようにしている。また入浴を少しでも楽しんでいただける様、色々な入浴剤を準備しています。	毎日入浴できるように準備している。時間帯は基本的に午後からとなっているが、利用者の希望に応じて、臨機応変に対応している。浴室の窓からは山の稜線が眺められ、温泉気分を味わうことができる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大事にし、入居者様の希望に沿い、いつでも休息をとれるようにしている。また居室内の湿度・温度・灯りの調整も行う。入居者様が安心して気持ちよく睡眠がとれるよう支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の入居者様の服薬チェックを随時行っており、服薬している薬の作用・副作用を理解し、処方箋も毎回ファイルに綴じ保管している。症状の変化にはじゅうぶん注意し、変化がある際は、看護師・又はかかりつけ医に連絡し指示を仰ぎ対応しています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や趣味を確認しながら得意分野で力を発揮し、楽しむ事ができるような場面作りをしている。またドライブや隣接するデイサービスの利用者様との交流を図り、気分転換して頂けるよう支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様のご意向・又は年間の行事計画で四季折々の行事・花などを観賞・外出していただく様にしているが、随時、入居者様からご希望があれば外出の機会を作り気分転換を図っていただけるよう支援している。またご家族様にも協力していただきできるだけ外出していただけるよう働きかけています。	さくら、紅葉見学、みかん狩りなど四季を感じてもらえるような外出を工夫している。また、利用者の希望を聴き、個別に外出に出かけるなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で紛失などが考えられ入居者様同士・職員のモチベーションの低下に繋がる可能性があるので入居者様がお金を所持する事はない。ただし外出時など買い物に行くときにはご本人様の希望や力に応じて、ご自分で好きな物を買われるように対応している。また本人様がお金を持つ大切さは理解しているが、ご家族様・入居者様に理解していただいた上でこのように実施させていただいています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご家族様に電話をしたいと意向があればすぐに対応している。また会話が他の入居者様に聞こえないよう配慮しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の周りの花壇には草花が咲き、畑には季節の野菜が育てられている。バリアフリーの玄関から広い居間兼食堂があり、庭に続いているウッドデッキからは緑の木々は癒しの空間を作っている。浴室やトイレも間口が広く明るい。ホームから見える毎年夏に行われている宮若市の花火大会は職員・入居者様が楽しみにしています。	ホームからは周辺の山々が一望でき、鶯の鳴き声や四季の移り変わりを楽しむことができる。夏には宮若市の花火大会があり、ホームのウッドデッキからの観賞を、利用者、職員共に楽しみにしている。ホーム内は広々とした開放感のある造りとなっており、玄関やトイレには手書きの看板が飾られ、温かな雰囲気演出している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のイスや居間のソファで仲の良い入居者様同士で寛がれている。また各居室にもイスを置き入居者様同士が行き来しやすい空間を作っています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には備え付けのベッドがあるが、馴染みのベッドを使用されている入居者様もいる、家具・使い慣れた物を置き、家族と相談しながら出来るだけ以前と変わらない空間作りをしている。また入居者様の写真・ご家族様との写真などを貼り、入居者様が居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室には利用者の使い慣れたタンス、テーブル、家族の写真等、思いでの品が持ち込まれ、家族と相談し、出来るだけ以前と変わりが無いよう工夫している。ベッドも利用者の希望に応じて、以前使用していたものを持ち込んだり、ベッドが不安な場合は、マットを敷いて、布団を敷く等、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、手すりの設置場所等を配慮し、危険防止に努め、安全に自立した生活を送れるようにしている。また入居者様の混乱に対して、何がわかりにくく、どうすれば自身の力でやっていただけるかを職員同士で相談しながら、少しでも自立した生活が送れるように努めています。		